

オープンキャンパス 2013 2日間で5千人超の来場者数を記録

オープンキャンパス実行委員長
三河内 岳（地球惑星科学専攻 准教授）

これまで1日だけの実施であったオープンキャンパスだが、2013年の今年は全学的に8月7日（水）・8日（木）の2日間の開催となった。理学部では初日の午後をプレオープンとして、おもに各学科による講演会を実施し、2日目をメイン開催日として、これまでと同様の展示や講演会などを実施した。猛暑だったにもかかわらず、初日に約1600人、2日目には約3800人もの来場者があり、2日間で5千人を超える人たちが理学部を訪れた（図1）。

初日のプレオープンから理学部1号



図2：満員の小柴ホールで行われた学生による講演会の様子

館は高校生たちで溢れ、小柴ホールや各講演会場は立ち見の人々で賑わいを見せた。初日は他学部の参加がほとんどなかったことから、多くの来場者が理学部に押し寄せることが見込まれ、各学科・専攻の講演会では事前に整理券を配布して対応してもらった。展示やラボツアーには随所に工夫が見られ、多くの高校生が活発な質疑をくりかえしていた。また、今年は地元の台東区立忍岡小学校からの見学者もあり、小学生にも分かる展示には特別のマークを付けるようにした。恒例となった小柴ホールの講演会では、物理学専攻、数理科学研究科、化学専攻の院生らによる研究紹介が行われた。いずれも自分たちの研究を高校生に分かりやすく紹介した魅力ある講演であった（図2）。同じく恒例行事の「学科・学部はどうやって選ぶ？理学部にしかできないこと」では、2名の教員による講演があり、それぞれなぜ



図1：多くの高校生であふれる理学部1号館ピロティの様子

理学部を志したかを自身の研究を通して話し、高校生らは食い入るように講演に聞き入っていた。また、小柴ホールホワイエでは「リガクル♡ミラクル<女子中高生のための相談コーナー>」が今年も開かれ、女子学生と女子中高生の間で熱心な議論が交わされていた。

2日間開催になり、準備する側にとってはこれまでの倍以上の苦勞があったが、大きな事故も無く、無事に終了できたのは、事前準備から当日の運営まで献身的に携わってくださった多くの方々のおかげである。とくに広報室の横山広美准教授、菅原栄子さん、そのほかの広報室のスタッフにこの場を借りて深く御礼申し上げます。また、大西淳彦事務部長を中心とした理学部事務と情報システムチームのサポート、各学科・専攻の実行委員の先生方とTAとして支えてくれた学生らの多大なご協力にも感謝の次第である。

理学部イメージコンテスト 2013 優秀作品

オープンキャンパス実行委員長
三河内 岳（地球惑星科学専攻 准教授）

オープンキャンパスに合わせた恒例イベントになっている理学部イメージコンテストが、2013年8月7日（水）・8日（木）に開催された。理学部の学生、教員による、日々の研究の中でみられる美しい、あるいは楽しい瞬間を記録した

14作品がオープンキャンパス期間中にサイエンスギャラリーに展示された。その結果、来場者の方をはじめ、スタッフや関係者による投票により、上位3作品が最優秀賞に選ばれた（裏表紙）。最優秀賞受賞者には、表彰状および賞品の図書券を贈呈し、作品はサイエンスギャラリーに9月中旬～11月末まで展示される。また、コンテストに出品された作品は東大理学部イメージバンクにも掲載の予定である。イメージコンテストは来年度以降も開催する予定なので、次回はあ

なたもぜひ作品を寄せてもらいたい。

（作品と応募者コメントは裏表紙を参照）

最優秀賞 研究データ部門

高橋英則（天文学教育研究センター 研究員）
「東京大学アタカマ天文台と南天の星空」

優秀賞 研究データ部門

河野俊丈（数理科学研究科 教授）
「負の定曲率曲面の模型」

優秀賞 研究生活部門

土居 守（天文学教育研究センター 教授）
「アタカマ塩湖の夕暮れ」

理学部合同防災訓練を実施

■ 自衛消防副隊長 稲田 敏行（総務課長）

理学部では、2013年6月7日（金）午後に理学部1号館、旧1号館、2号館、3号館、4号館、7号館および化学館合同による防災訓練（避難および個別訓練）を実施し、避難訓練には教職員、学生など約1,500人が参加した。本郷・浅野地区合同の防災訓練は東日本大震災後の2012年に大規模地震を想定して行われ、今回で2回目の実施となる。今年度は昨年度より早い時期に実施し、新入生の学生が参加し、防災意識をもった参加者が多かった。

訓練開始予定時間の14時25分に、緊急地震速報のチャイム音の斉放送により訓練が始まった。まずは緊急地震速報が放送されたときの対応訓練を行った。

地震の強い揺れが到達するまでの短い間に身の安全を確保することが重要であるが、研究室等では、棚の転倒や落下物による危険性の少ない場所へ移動して身の安全を確保する。揺れがおさまったら、火の始末、そして避難路を確保する。続いて、理学系対策本部長の相原博昭研究科長からの避難指示により、専攻・施設で指定された場所への避難が開始された。また、化学本館・2号館では火災発生を想定して、消火および通報訓練も併せて行われた。この間、避難場所に集まった各専攻・施設は安否確認の集計結果と被害状況を理学系災害対策本部に報告の後、同本部自衛消防隊長の大西淳彦事務部長が理学系安否確認情報（避難者数）および被害状況を本郷消防署員



■ 避難訓練の後の本郷消防署の講評を受ける参加者

に報告した。その後、本部長の相原研究科長、本郷消防署予防課の講評があり、避難訓練が終了した。

この後、個別訓練会場へ移動し、多くの教職員・学生が本郷消防署の指導による消火器使用方法、救出・救護訓練および煙ハウス、起震車による体験訓練に参加した。

各専攻・施設で出された今回の訓練で問題点や良い点等を総括し、次回の訓練に生かしていきたい。

新しい企画で理系女子をアピール

■ 横山 広美

（科学コミュニケーション 准教授）

毎年行っている女子中高生イベントに来場する生徒には共通点がある。このイベントに来る大部分の生徒は、理系に進学するか否か「迷っている」生徒たちである。理系進学が決まっており、迷いのない理系が大好きな生徒は、理学部が開催する、ほかの理系イベントに参加する。そこでこのイベントには、もし理系に進学した場合、どんな将来が待っているのだろうと考える材料を提供することがミッションになる。

理学部の女子中高生イベントはこの数年、毎年開催しているが、参加者の上記の傾向が強いことを再確認した上

で、今年は少し趣向を変え、2013年8月26日（月）に開催した。

これまでは講演者に研究内容の紹介、およびその後に見学や実験を中心に行い好評を得ていたが、理学部に興味があるけど、研究者になりたいとまでは決まっていない、という声も一定数ある。そこで、今年は、2名の講演者のうち一名を、社会で活躍する卒業生に依頼することになり、トップバッターとして東京大学理学部物理学科を卒業し、朝日新聞社で活躍する高橋真理子氏に依頼した。二人目の講演者は、生物科学専攻の榊原恵子助教にお願いし、研究人生の醍醐味についてお話いただいた。社会と研究分野での活躍をそれぞれに話いただ

き、参加者にもたいへん高い評価をいただいた。また、講演の後には、10学科から一名ずつの学生に、直接、生徒さんと交流してもらった。こちらもたいへん好評だった。

理学部では多くの高校生向けイベントを開催しているが、ニーズを十分に見極めながら適切な企画を提案していきたいと思っている。



■ 卒業生による講演の様子

理学系研究科・理学部支援基金 - 若手人材育成に必要な財務基盤 の確立を目指して -

理学系研究科長・理学部長
相原 博昭 (物理学専攻 教授)

理学系研究科は、渉外本部の協力を得て、東京大学基金として最初の部局支援基金となる「理学系研究科・理学部支援基金」を2013年4月に立ち上げました。基金とは、一定の目的のために積み立

てて準備しておく資金です。若手人材の育成は、本研究科のもっとも重要な社会的使命のひとつです。若手人材は、「科学的好奇心によって創造活動を進め、科学によって社会の課題を解決し、限界を突破し、イノベーションを引き起こす」という理学の本質的価値を創り出す原動力です。法人化以降、国立大学の自己収入増加のための努力が求められています。本研究科も、自らの社会的使命の持続的遂行を可能にする財

務基盤の確立を目指して、広く社会から寄付を募り基金化することにしました。この基金の将来は、本研究科のすべての構成員が、この使命の重みを共有し、最先端の研究と教育を展開し、そして、成果を広く社会に周知するという、理学系研究科の本分を果たせるか否かにかかっていると思います。この基金を大きく育てるために努力したいと思います。本基金へのみなさまのご支援をお願い申し上げます。

高校生のための夏休み講座 2013 報告

横山 広美
(科学コミュニケーション 准教授)

今年の高校生のための夏休み講座2013は、7月に3日間、8月に2日間、それぞれ2名ずつの教員に講演をしてもらい、各日とも150名ほどの参加者があった。定着しつつある理学部の定番イベントであるが、その運営において印象的だったのは、ほぼすべての講座に毎回来る生徒もいれば、いっぽうで、一名の教員をめぐって参加する生徒も多かったことである。講義の後には質疑応答の時

間を設けているが、講義に関連する質問もあれば、以前から気になっている質問を専門の教員に投げる生徒も少なからずいた。全体の質疑応答の時間には手を挙げる勇気がないけれど、講義の後に、教員の前に自然に列ができ、時間が許す限り質問を続ける生徒も多くみられた。丁寧に最後まで対応をいただいた各講演者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、毎回のことであるが、「高校生」と銘打っているが中学生の参加も可能としていることから、多くの中学生にも参加をいただいた。運営側としてはうれしい限りである。今後も本イベントが理学部の顔イベントとして発展していくように、運営に尽力していきたい。



■ 高校生のための夏休み講座 2013ポスター

北村亮太さん2013INAS陸上 世界選手権で金メダル

邑田 仁 (植物園 教授)

東京大学理学系研究科附属植物園の環境整備チームで活躍されている北村亮太さんが、2013年6月11日(火)から15日(土)にかけてチェコ・プラハで開催された2013INAS(国際知的障害者スポーツ連盟)陸上世界選手権に日本代表選手として出場し、陸上競技

400mリレーで44秒49の日本新記録をマークして金メダルを獲得されました。個人種目では200mで決勝5位、100m準決勝6位、また1600mリレーでは決勝4位(日本新)の成績を収められました。誠にありがとうございます。

北村さんにとっては幾度目かの世界選手権での挑戦でした。日頃から「走ることが大好きです」と言いながら生き生きと働いている北村さんの努力が報われてほんとうによかった。今後のさらなる活躍をお祈りいたします。



■ メダルを手に笑顔を見せる北村亮太さん